

日中対照研究

——主語の省略について(二)資料篇——

小川 泰生

筆者は先に、「日中対照研究—主語の省略について(一)本論篇—」(『広島大学総合科学部紀要言語文化研究』第15巻)で、日本語と中国語の主語の省略について述べたが、紙数の関係で資料を網羅できなかった。ここに、資料篇として発表した。なお、分類は前稿に従い、

- 1、日本語も中国語も省略しないもの
 - 2、日本語も中国語も省略するもの
 - 3、日本語は省略しないが、中国語は省略するもの
 - 4、日本語は省略するが、中国語は省略しないもの
- の四つに分け、1のように、共に主語のあるものを**太字**、2のように、共に省略される場合を▽、3・4のように、自分は省略されないが相手が省略される場合を△▽、自分は省略されるが相手が省略されない場合を△で表わすこととする。(補注)
- 一 日本語も中国語も省略しないもの
 - 一— 固有名詞が主語となる

①「きみちゃんも、体につけてね」(石76)

「紀美子要保重身體阿！」(石76)

②メロスは、一生このままここにいたい、と思った。

(走70)

梅洛斯想、但願一生就這樣呆在這裏。(走75)

③石野貞一郎は玄関から居間に急ぎ足ですすんだ。

(証2—66)

石野貞一郎快步從門口向臥室走去。(証2—71)

④夏子は思わず強くつっぱねました。(風70)

夏子不由地硬頂了媽媽一句嘴。(風74)

一— 主体が変わる

⑤五六人の鑛夫が婆さんをいたはつてゐた。

私は婆さんの世話を快く引き受けた。(伊25)

五六個鑛工在安慰着老婆婆。我爽快地答應照料她。

(伊140)

⑥男と一緒に私の部屋に歸つてゐると、間もなく上の娘

が宿の庭へ来て菊畑を見てゐた。踊子が橋を半分程渡つてゐた。四十女が共同湯を出て二人の方を見た。踊子はきゆつと肩をつぼめながら、叱られるから歸ります、といふ風に笑つて見せて急ぎ足に引き返した。四十女が橋まで来て聲を掛けた。(伊19)

我和那個男人回到我的房間，不久，那個年長的姑娘到旅館的院子裏來看菊花圃。歌女剛剛走在小橋的半當中。四十歲的女人從公共浴場出來，朝她們兩人的方向望看。歌女忽然縮起了肩膀，想到會挨罵的，還是回去的好，就露出笑臉，加快脚步回頭走。四十歲的女人來到橋邊，揚起聲來叫道。(伊126)

⑦ 榮吉が言った。

「外の者も来るのか。」

踊子は頭を振った。(伊25)

榮吉說：

「別の人來了嗎？」

歌女摇摇头。(伊140)

⑧ 少年が竹の皮包を開いてくれた。私はそれが人の物であることを忘れたかのやうに海苔卷のすしなぞを食つた。(伊25)

……，那少年給我打開了竹皮包着的菜飯。我好象忘記了這不是自己的東西，拿起紫菜飯卷就喫起來，……

(伊141)

⑨ 私はほつとして男と並んで歩き始めた。男は次ぎ次ぎにいろんなことを私に聞いた。(伊16)

我放心下來，開始同那個男人并排走路。他接連不斷地向我問這問那。(伊121)

一三 とりたて

⑩ 「おじさんと言いなさい、おじさんがあなたに聞いているのよ！」(リ161)

「叫叔叔，叔叔問你呢！」(リ161)

⑪ 「いいとも、たんとでなければ、あたしがなんとかしてあげよう」(ダ6-79)

「当然可以！要不是太多的話，我怎麼也給你弄点。」

(ダ6-79)

⑫ 「……、ほとぼりが冷めた頃、あたしが一緒に行つて謝つてあげるから。」(ダ6-78)

「……，等過了那股勁兒冷靜下來時，我再和你一起去，

替你陪個不是。」(ダ6-78)

⑬ 「高等學校の學生さんよ。」と、上の娘が踊子に囁いた。(伊17)

「是位高等學校的學生呢，」年長的姑娘對歌女悄悄說。

(伊121)

⑭ 「學生さんが澤山泳ぎに来るね。」と踊子が連れの女に言つた。(伊17)

「有許多學生到我們那兒來游泳，」歌女向結伴的女人

説。(伊121)

前稿の一―四であげた⑨⑩などもとりたてである。

一―四 格助詞「が」のついているもの

⑮ 榮吉が部屋へ上つて来て言った。(伊24)

榮吉走進房間裏來說：(伊139)

⑯ 「夏でせう」と、私が振り向くと、踊子はどぎまぎし

て、「冬でも……。」と、小聲で答へたやうに思はれた。

(伊17)

「是在夏天吧」我説着轉過身來。

歌女慌了身，象是在小聲回答：「冬天也……」(伊122)

⑰ 「冬でも泳げるんですか」と私がもう一度言ふと、踊

子は赤くなつて、非常に眞面目な顔をしながら軽くう

なづいた。(伊17)

「冬天也游泳嗎？」我又説了一遍，歌女臉紅起來，可

是很認眞的樣子，輕輕地点着頭。(伊122)

⑱ 踊子が下から茶を運んで來た。(伊17)

歌女從樓下端來了茶。(伊122)

⑲ 私が振り返ると笑ひながら言つた。(伊17)

我回過頭來，聽見歌女笑着説：(伊121)

一―五 副助詞「も」のついているもの

⑳ 「私も、最初はおかしい気がしました」(D 27)

「我對這事開始也懷疑過」(D 17)

㉑ 「私も三十二だ」(D 34)

「我也是三十二歲」(D 22)

⑳ 「やめよう、あんたも帰らなくちゃ」(リ137)

「算了吧、你也該回去了」(リ137)

㉑ 「あの爆撃で、私も、氣を失つてしまったからね」

(D 60)

「那次轟炸中，我也是被炸得神志昏迷，……」(D 40)

㉒ 「私も東京は知つてます」(伊22)

「我也去過東京，……」(伊134)

二 日本語も中国語も省略するもの⁽¹⁾

二―一 眞理や事實や客觀性の強い発言

㉓ 「そう。ということも考えられるわけだよ」(友56)

「對，不能排除這個可能。」(友56)

㉔ 私の家は通りからはいった突き当たりです。初めて来るには、おそらく非常にさがしにくいでしょう。(リ194)

194)

我家在胡同兒的盡裏頭。初次來恐怕很難找到。(リ194)

二―二 命令、依頼⁽²⁾

㉕ 「もつたいぶらずに話してくださいよ」(牛61)

「別故弄玄虛了，快講講吧」(牛61)

㉖ 「電話を貸して頂けませんか」(D 50)

「借個電話好嗎？」(D 32)

㉗ 「いかがですか？ベルンまで乗せて上げてくれませんか

か？」(D 37)

「怎麼樣？能不能把他們帶到貝隆去？」(D 24)

③②「落着けよ。」(D 21)

「沈着点。」(D 13)

③①「ひとつ、わたしの最後のたのみを聞いてはくれまいか。」(友53)

「能不能満足我最后的一个要求？」(友53)

③②「ふざけたことをぬかすねえ」(入59)

「別胡扯八道。」(入59)

③③「ばかなことをお云いでないよ」(ダ6-82)

「不要說那些胡塗話！」(ダ6-82)

③④「決して死ぬなんてことを考えちゃいけないよ。」(ダ6-82)

「絶対不要想到死甚麼的！」(ダ6-82)

③⑤「活動につれて行つて下さいね。」(伊24)

「带我去看電影啊。」(138)

二一三 日本語の句点(。)を中国語では逗号(，)で訳す場合

③⑥私は何も考へてゐなかつた。ただ清々しい満足の中に静かに眠つてゐるやうだつた。(伊25)

我甚麼都不想，只想在安逸的満足中静睡。(伊141)

③⑦私は鳥打帽を脱いで榮吉の頭にかぶせてやつた。そしてカバンの中から学校の制帽を出して皺を伸ばしながら

二人で笑つた。(伊24)

我摘下便帽，把它戴在榮吉頭上，然後從書包裹取出學生帽，拉平皺折，兩個人都笑了。(伊140)

③⑧傍に行くまで彼女はじつとしてゐた。黙つて頭を下げた。(伊24)

在我們走進她身邊以前，她一直在發愣，沈默地垂着頭。(伊140)

③⑨私が急に身を引いたものだから、踊子はこつんと膝を落した。屈んだまま私の身の周りをはたいて廻つてから、揚げてゐた裾を下して大きい息をして立つてゐる私に「お掛けなさいまし。」と言つた。(伊22)

我趕忙向後退，她不由得跪了下來，彎着腰替我渾身揮塵，然後把翻上來的裙子下擺放下去，對站在那裏呼呼喘氣的我說：

「請您坐下吧。」(伊134)

二一四 會話⁽³⁾

④⑩「御免なさい。叱られる。」(伊21)

「對不起，要挨罵啦。」(伊130)

④⑪「ああ、お月さま—明日は下田、嬉しいな。」(伊22)

「啊，月亮出來啦……明天到下田，可真高興啊，……」(伊133)

④⑫「嬉しいね。嬉しいね。」
「叱られやしませんか。」(伊19)

「那可開心，那可開心。」

「不会挨罵嗎？」（伊127）

④3 「高等學校の學生さんよ。」（伊17）

「是位高等學校的學生呢，」（伊121）

④4 「いいとも。何処で会う」（D 58）

「可以，在甚麼地方見？」（D 39）

三 日本語は省略しないが中国語は省略するもの

三——日本語と中国語で主語の位置が逆になる場合

④5 「ええ……」△とだけ言って、△私は▽その上に腰を下した。（伊15）

「啊……」△我▽只答了一聲△就坐下了。（伊117）

④6 母がそこにいたので、△きみ子は▽食べないと尚変だった。△なにげない風に齒をあてた。（石76）

媽媽在跟前，若是△不喫会更使媽媽奇怪，△紀美子▽就裝作若無其事的样子咬了一口。（石76）

④7 あまりのことに、△呆然として帰途についた時、△私は▽突然血も凍るような戦慄におそわれた。（牛63）

這太過分了。△我▽茫然地回去時，△突然感到一陣戰慄，彷彿全身的血都凝固了。（牛63）

④8 やうやく峠の北口の茶屋に辿りついて△ほつとすると同時に、△私は▽その入口で立ちすくんでしまった。（伊15）

好不容易才來到山頂上北路口的茶館，△我▽呼了一口氣，同時△站在茶館門口呆住了。（伊117）

④9 そして、病院につとめているせいとか、△やがてあることに気づいた。△彼女は▽思わずそれを口にした。（友56）

也許是由于在医院工作的關係，△她▽馬上聯想到一件事，△不覺脫口而出地說：（友56）

⑤0 △湯には行かずに、△私は▽踊子と五目を並べた。（伊20）

△我▽沒有去，△跟歌女下五子棋。（伊130）

⑤1 △二人が話し出したのを見て、うしろから△女たちが▽ばたばた走り寄つて來た。（伊16）

△幾個女人▽看見我們兩個在談話，△便從後面奔跑着趕上來。（伊121）

⑤2 「これで柿でもおあがりなさい。二階から失礼。」△と
言つて、△私は▽金包みを投げた。（伊18）

「拿這個買些柿子喫吧。對不起，我不下樓啦，」△我▽說着△包了一些錢投下去。（伊124）

⑤3 △息が苦しいものだから、却つてやけ半分に△私は▽膝頭を掌で突き伸すやうにして足を早めた。（伊22）

……，△我▽走得氣喘籲籲，反而有点豁出去了，△加快步伐，伸出手掌拄着膝蓋。（伊134）

この他、三に属するものとしては、「有」の構文、無主

語文などがあげられる。

⑤4 たぶん春節が好きでない△こどもは▽いないでしょう。

(リ171)

△大概没有一个孩子不喜歡春節的吧。(リ171)

⑤5 …、もしもその夏の一日の終わりに△夕立が▽降らなかったら、二人は出会うこともなく、別々の人生を送ったかもしれない。(日76)

可是那年夏季的一天傍晚，如果△没有降下一陣雷陣雨，則這兩個人恐怕也就不会相遇，他們或許各自走上了不同的的人生道路。(日76)

四 日本語は省略するが、中国語は省略しないもの

四一 承前

⑤6 「旦那さま、旦那さま」と叫びながら、婆さんが追つかけて来た。「こんなに戴いては勿體なうございます。申譯ございません。」

そして△私のカバンを抱きかかへて渡さうとせずに、幾ら断わつても△その邊まで送ると言つて承知しなかつた。△一町ばかりもちよこちよこついで来て、同じことを繰り返してゐた。(伊16)

「少爺，少爺！」老婆子叫着追了出來，「您這麼破費，真不敢當，實在抱歉啊。」△她▽抱着我的書包不肯交給
我，我一再阻攔她，可△她▽不答應，說要送我到那邊。

△她▽隨在我身後，匆忙遇着小步，走了好大一段路，老是反復着同樣的話。(伊120)

⑤7 踊子は枯草の中の腰掛けに太鼓を下すと手巾で汗を拭いた。そして△自分の足の埃を拂はうとしたが、ふと私の足もとにしやがんで袴の裾を拂つてくれた。(伊22)

歌女在枯草叢中卸下了鼓，放在凳子上，拿手巾擦汗。

△她▽要揮揮腳上的塵土，却忽然蹲在我的腳邊，抖着我裙子的下擺。(伊134)

⑤8 それからまた踊子は、

「お父さんありますか。」とか

「甲府へ行つたことありますか。」とか、ぼつりぼつりいろんなことを聞いた。△下田へ着けば活動を見ることや、死んだ赤坊のことなどを話した。(伊22)

然後她問東問西：「你父親還在嗎？」「你到過甲府嗎？」等等。△她▽說到了下田要去電影，還談起那死了的嬰兒。(伊134)

⑤9 榮吉は途中で敷島四箱と柿とカオールといふ口中清涼劑とを買つてくれた。

「妹の名が薰ですから。」と△微かに笑ひながら言つた。(伊24)

榮吉在路上買了柿子，四包敷島牌香煙和薰香牌口中清涼劑送給我。

「因爲我妹妹的名字叫薰子，」**他**微笑着說：（伊 139）

⑥0 きみ子は、秘密のよろこびに触れた自分が、母に恥ずかしかった。

しかし、**啓吉**に知られないで、心いっぱいの別れ方をしたように思い、また、いつまでも**啓吉**を待っていられそうに思うのだった。

△そつと母の方を見ると、鏡台を隔てる障子にも日が射していた。（石 77）

紀美子爲自己觸到了秘密的喜悦，而對母親有些過意不去。

然而，**她**覺得在**啓吉**不知道的情況下自己已向他做了充滿熱情的告別，并且覺得自己能够等到**啓吉**的歸來。

△紀美子偷偷地往母親那邊瞅了一眼，陽光正照在隔着梳妝鏡台的紙牆上。（石 77）

四—二 文脈

⑥1 「決して歌ふんじやないよ。」とおふくろが言ふと、彼女は太鼓を提げて軽くうなづいた。おふくろは私を振り向いた。「今**△**ちやうど聲變りなんですから—」

（伊 21）

「你千萬不要唱歌呀，」媽媽說。她提着鼓微微地點頭。

媽媽轉過身來對我說：「現在**△**她恰巧在變嗓子。」

（伊 132）

⑥2 私が振り返つて話しかけると、驚いたやうに微笑みながら立止つて返事をする。踊子が話しかけた時に、**△**追ひつかせるつもりで待つてゐると、彼女はやはり足を停めてしまつて、私が歩き出すまで歩かない。路が折れ曲つて一層険しくなるあたりから**△**益々足を急がせると、踊子は相變らず一間うしろを一心に登つて來る。（伊 22）

我回過頭去和她講話，她好象喫驚的樣子，停住脚步微笑着答話，歌女講話的時候，**△**我等在那里，希望她趕上來，可是她也停住脚步，要等我向前走她才萬步。

道路曲曲折折，愈加險阻了，**△**我越發加快了脚步，可是歌女一心地攀登着，依旧保持着—兩半的距離。（伊 134）

⑥3 「隣の部屋に高校生の女の子が入つたの」やがて思ひなおしたように妻は、

「今日、廊下で少し話したわ。十七歳だつて**△**言つていたから……美津子が生きていたら、今、同じ年の高校生ね。」（嘘 59）

「隔壁的房間，住進了一個高中女學生。妻子立刻象改變主意似地說：

「今天，在走廊裏，我和她說了一會兒話。**△**她說她十七歲，……，所以我想起來了，如果美津子活着的話，

現在，也是一個和她年齡相同的高中生啦！」（噓 59）

⑥4 車が海へつっこむ寸前に、あたしは力をふりしぼって、前部座席にいる二人の首つ玉を両手でしっかりつかまえてやります。

△ふりほどこうとしても、せまい車の中だし、海中だから、ふりほどくことはできないでしょう。（ダ―84）
在汽車将要撲進裏的時候，我要用盡全身力氣，把前邊座位上的兩人的脖子，用兩手緊緊摟住。

即使△他們▽想要掙開，由于是在狹窄的車子裏，而且還是在海裏，大概也掙脫不開吧！（ダ6―84）

⑥5 二階に上がってきつさと縫い物をしていると、十時ごろ啓吉の声が聞こえた。木戸があいていたか、△いきなり庭の方へ回ったらしく、氣負い立った早口だった。（石75）

上了二樓，紀美子麻利地做起針綫活兒來。十点左右，傳來了啓吉的聲音。也許柵門是開着的，△啓吉▽象是一下子轉到了院子裏，說話聲有些興奮，急促。（石75）

⑥6 娘達は一時に私を見たが、至極なんでもないと顔で黙つて、少し羞かしさうに私を眺めてゐた。△皆と一緒に宿屋の二階へ上つて荷物を下した。（伊17）

姑娘們一同看了我一眼，臉上沒有露出一點意外的神情，沈默着，帶點兒害羞的樣子望着我。

△我▽和大家一起走上小旅店的二樓，卸下了行李。

（伊122）

四―三 敬語

⑥7 「この次も△きつとお立寄り下さいまし。お忘れはいたしません。」（伊16）

「以後△您▽一定要來呀，可別忘記了。」（伊120）

⑥8 「△今日はゆつくり休まれた方がいいでしょう。」（D 56）

△您▽今天好好地休息一下。（D 38）

これには反例も多く、中国語でも省略される場合がかなり見られる。

四―四 相手の名前を呼んで話しかける場合

⑥9 「お婆ちゃん△はドライブが好きだったね。」（ダ6―78）

「姥姥△您▽是喜歡郊游嗎？」（ダ6―78）

⑦0 「お婆ちゃん△ドライブと一緒に行きさえしなけりや、この計画はおじちゃんになるんだ。」（ダ6―81）

「姥姥，△您▽只要不一起去郊游，這個計劃也就落實了。」（ダ6―81）

⑦1 「兄さん、△かいでござんなさい。何のにおいかしら、こんなにおいにおいなんだけど？」（り103）

「大哥，△你▽聞一聞，是甚麼味兒，這麼香？」（り103）

⑦2 「だから、お婆ちゃん、△ドライブに行つてはいけな

いよ。」(ダ6-80)

「所以，姥姥，**您**千萬別跟去郊游啊。」(ダ6-80)

四—五 複文

四—五—一 「A、B……」

「A、B……」(例えば「Aがした時、Bは……」)の形は、原則的には、日本語、中国語とも、AもBも省略されない。

⑦3 湯ヶ野の木賃宿の前で**四十女**が、ではお別れ、といふ顔をした時に、**彼は**言ってくれた。(伊17)

到了湯野的小客棧前面，**四十歲的女人**臉上露出向我告別的神情時，**他就**替我說：(伊122)

⑦4 **私が**急に身を引いたものだから、**踊子**はこつんと膝を落した。(伊22)

我趕忙向後退，**她**不由得跪了下來，(伊134)

⑦5 **彼は**長岡温泉の印半纏を着てゐるので、長岡の人間だと**私は**思つてゐたのだつた。(伊134)

由于**他**穿着印有長岡温泉商號的外衣，所以**我**認為他是長岡人。(伊123)

⑦6 **彼**が餘りに何げない風なので、**私は**黙つてしまつた。(伊18)

他若無其事的样子，**我**沈默了。(伊125)

⑦7 **しかし****私が**意味もなく笑つてばかりなので**紙屋**はあきらめて立ち上つた。(伊19)

但是我一点意思也没有，只是笑了笑，**紙商**斷了念，站起身走了。(伊127)

⑦8 **私が**甲州屋を出ようとすると、**踊子**が玄關に先廻りして下駄を揃へてくれながら、「活動につれていつて下さいね。」とまたひとり言のやうに呟いた。(伊24)

我想走出甲州屋，**歌女**就搶先跑到門口，給我擺好木屐，然後自言自語似地悄聲說：「帶我去看電影啊。」(伊138)

⑦9 **私が**指でべんべんと太鼓を叩くと**小鳥**が飛び立つた。(伊22)

我用手指咚咚地叩着鼓，**那些**小鳥飛走了。(伊135)

⑦8 **おれ**がチャイムを鳴らすと、**お婆ちゃん**は出て来た。(ダ6-78)

我一按門鈴，**姥姥**就出來了。(伊6-78)

⑦1 夜、**私が**木賃宿に出向いて行くと、**踊子**はおふくろに三味線を習つてゐるところだつた。(伊21)

晚上**我**到小旅店去，**歌女**正跟媽媽學三弦。(伊131)

⑦2 **私が**讀み出すと、**彼女は**私の肩に觸る程に顔を寄せて眞剣な表情をしながら、眼をきらきら輝かせて一心に私の顔をみつめ、瞬き一つしなかつた。(伊21)

我一開口讀，**她**就湊過臉來，幾乎碰到我的肩頭，表情一本正經，眼睛閃閃發光，不眨眼地一心盯住我的前額。

⑦3 「どうも有難う。お爺さんが一人だから歸つて上げて」(伊131)

下さい。」と私が言ふと、婆さんはやつこのことでカバンを離した。(伊16)

「非常感謝。老爺子一個人在家，請回吧。」我這麼說老婆子才算把書包遞給我。(伊120)

⑧4 「私は身を誤った果てに落ちぶれてしまひましたが、兄が甲府で立派に家の後目を立てててくれます。」

(伊20)

「我耽誤了自己的前程，竟落到這步田地，可是我的哥哥在甲府漂亮地成家立業了，當上一家的繼承人。(伊

129)

しかし、日本語には、四一一一四一四にあげたような主語の省略があり、中国語ではそれを補わなければならない。

四一一承前によつて、「A、B」がくずれる例¹⁵⁾

⑧5 汽船が下田の海を出て伊豆半島の南端がうしろに消えて行くまで、私は欄干に凭れて沖の大島を一心に眺めてゐた。踊子に別れたのは遠い昔であるやうな氣持だった。婆さんはどうしたかと△船室を覗いて見ると、もう人々が車座に取り囲んで、いろいろと慰めてゐるらしかった。(伊25)

輪船開出下田の海面，伊豆半島南端漸漸在後方消失，我一直憑倚着欄杆，一心一意地眺望海面上的大島。我覺得跟歌女的離別彷彿是很久以前的事了。老婆婆怎麼啦？△我▽探頭向船艙裏看，已經有好多圍坐在她身

旁，似乎在百般安慰她。(伊141)

⑧6 その上娘盛りのやうに装はせてあるので、私はとんでもない思ひ違ひをしてゐたのだ。

△男と一緒に私の部屋に歸つてゐると、間もなく上の娘が宿の庭へ來て菊畑を見てゐた。(伊19)

再加上她被打扮成妙齡女郎的樣子，我的猜想就大錯特錯了。

△我▽和那個男人回到我的房間，不久，那個年長的姑娘到旅館的院子裏來看菊花圃。(伊126)

⑧7 そこで私は出立を延ばすことにして階下へ下りた。皆が起きて來るのを待ちながら、△汚い帳場で宿の者と話してゐると、男が散歩に誘つた。(伊20)

因此我延緩了行期，走到樓下去。爲了等大家起床，△我▽在骯髒的帳房間裏跟旅店的人閑談，那個男人來邀我出去散步。(伊129)

四一二文脈のために「A、B」の形がくずれる例

⑧8 私達は街道から石ころ路や石段を一町ばかり下りて、小川のほとりにある共同湯の横の橋を渡つた。橋の向うは温泉宿の庭だった。

△そこの内湯につかつてゐると、後から男が入つて來た。(伊17)

我們從街道下行，走過好大一段碎石子路和石板路，過了小河旁邊靠近公共浴場的橋。橋對面就是溫泉旅館的

院子。

△我▽進入旅館的小浴室，那個男人從後面跟了走。

(伊 123)

⑧9 おふくろは繰り返し言つた。

「それぢや冬休みには皆で船まで迎へに行きますよ。宿を報せて下さいませね。お待ちして居りますよ。宿屋へなんぞいらしちや厭ですよ、船まで迎へに行きますよ。」

部屋に千代子と百合子としか居なくなつた時△活動に誘ふと、千代子は腹を抑へてみせて、

「體が悪いんですもの、あんなに歩くと弱つてしまつて。」と蒼い顔でぐつたりしてゐた。(伊 24)

媽媽翻來復去地說：

「那麼，到冬天休假的時候，我們劃着船去接您。請先把日期通知我們，我們等着。住在旅館裏多悶人，我們用船去接您。」屋裏只剩下千代子和百合子的时候，△我▽請她們去看電影，千代子用手按着肚子說：

「身子不好過，走了那麼多的路，喫不消啦。」她臉色蒼白，身体象是要癱下來了。(伊 138)

⑨0 私は鳥打帽を脱いで榮吉の頭にかぶせてやつた。そしてカバンの中から學校の制帽を出して皺を伸ばしながら二人で笑つた。

乗船場に近づくと、海際にうづくまつてゐる踊子の姿

が私の胸に飛び込んだ。△傍に行くまで彼女はじつとしてゐた。黙つて頭を下げた。(伊 24)

我摘下便帽，把它戴在榮吉頭上，然後從書包裏取出學生帽，拉平皺折，兩個人都笑了。

快到船碼頭的時候，歌女蹲在海濱的身影撲進我的心頭。在△我們▽走進她身邊以前，她一直在發愣，沈默地垂

着頭。(伊 140)

⑨1 「△調べさせますから、△暫く待つて下さい。」(D 47)

「△我▽派人去調查，請△您▽暫時等待一下。」(D 31) 四—三敬語で「A：、B：」の型がくずれる例

⑨2 「ミスター・ハンクが、到着したら、△日本公使館の関谷まで、電話するように、伝えて頂けませんか。心配してゐるからと」(D 54)

「如果漢庫先生到了，請△您▽讓他給日本公使館的關

谷打個電話，免得使我放心不下。」(D 36)

その他、命令、依頼、會話などで「A：、B：」の型がくずれる例

⑨3 「△直ぐ戻つて來ますから、▽待つてゐて▽續きを讀んで下さいね。」(伊 21)

「△我▽馬上就回來，▽等我一下，還請▽接着讀下去。」(伊 132)

⑨4 「とにかく、今日は△これから出かけなくちやならんから、▽明日午後來たまえ。」(牛 63)

「但是……反正，今天△我▽馬上得出去一下，▽明天下午再來吧。」（午 63）

⑨5 「お母さんが行きたがらないんだから、▽お母さんを誘ってはだめだよ。」（リ 175）

「既然媽不願意去，▽就別叫她去了。」（リ 175）

四一五一二 「A、A……」

「A、A……」は原則的には、**太字**▽又は▽**太字**である。⁽⁶⁾
太字▽の例

⑨6 「皆もお送りしたいのですが、▽昨夜晩く寝て起きられないので失禮させていただきます。」（伊 24）

「本來大家都想來送行的，可是▽昨天夜裏睡得很遲，起不了床，叫我來道歉。」（伊 139）

⑨7 男が歸りかけに、▽庭から私を見上げて挨拶をした。（伊 18）

那個男人臨走的時候，▽從院子裏向上望着我，和我打招呼。（伊 124）

⑨8 娘達は一時に私を見たが、▽至極なんでもないといふ顔で黙つて、少し羞かしさうに私を眺めてゐた。（伊 17）

姑娘們一同看了我一眼，▽臉上沒有露出一點意外的神情，沈默着，帶點兒害羞的樣子望着我。（伊 122）

▽**太字**の例

⑨9 ▽少し話してから**彼は**言った。（伊 25）

▽談過幾句話之後，他說：（伊 141）

⑩0 しかし▽急に步調を緩めることもできないので、私は冷淡な風に女達を追ひ越してしまつた。（伊 16）

可是▽不能突然間把脚步放慢，我裝做冷淡的樣子追過了那幾個女人。（伊 121）

⑩1 ▽今まで、表面だけはともかくも保つてきた自分の位置が、露骨に崩されるのだと思うと、**彼は**厭な気がした。（入 60）

▽想到直到現在表面上總算還保持着自己的地位，這回徹底垮定的了，他感到了煩惱。（入 60）

⑩2 ▽湯から上ると**私は**直ぐに晝飯を食べた。（伊 18）
▽洗過澡我立刻喫午飯。（伊 123）

⑩3 ▽公使館に入ると、**関谷**は、すぐ公使に会つた。（D 55）

▽到了公使館，**關谷**立即會見了公使，（D 37）

⑩4 晝飯から三時間と經たないうちに、▽夕飯をすませて、**私は**一人下田の北へ橋を渡つた。（伊 24）

喫過午飯還不到三小時▽就喫了晚飯，我獨自從下田向北走，過了橋。（伊 138）

⑩6 ▽六町と行かないうちに**私は**彼等の一行に追ひついた。（伊 16）

▽走了不過一公里，我就追上他們了。（伊 121）
承前や文脈、敬語、命令等によつて型がくずれた例⁽⁷⁾

⑩踊子は枯草の中の腰掛けに太鼓を下すと手巾で汗を拭いた。そして△自分の足の埃を佛はうとしたが、▽ふと私の足もとにしゃがんで▽袴の裾を佛つてくれた。

(伊22)

歌女在枯草叢中卸下了鼓，枚在凳子上，拿手巾擦汗。

△她▽要揮揮腳上的塵土，▽却忽然蹲在我的腳邊，▽抖着我裙子的下擺。(伊134)

⑪踊子は階下で宿の子供と遊んでゐた。△私を見ると▽おふくろに縦りついて活動に行かせてくれとせがんでゐるが、▽顔を失ったやうにぼんやり私のところに戻つて下駄を直してくれた。(伊24)

歌女正在樓下跟小旅店的孩子們一起玩。△她▽一看到我，▽就去央求媽媽讓她去看電影，可是接着▽垂頭喪氣的，▽又回到我身邊來，給我擺好了下屐。(伊139)

⑫追伸△いくらお金が入っても、▽競輪にだけは手を出さないこと。(ダ6―84)

再者，不管△您▽得到了多少錢，▽也千萬不要去參加賽車。(ダ6―84)

⑬「私も東京は知つてます。お花見時分に踊りに行つて。

▽小さい時で▽なんにも覚えてゐません。」(伊22)

「我也去過東京，賞花時節我去跳舞的。那時▽還很小，▽甚麼也不記得了。」(伊134)

以上、前稿で収めきれなかつた資料を補つた。中国語は日本語と比較すると、主語を補うことが多い。その理由として、敬語の問題、文末表現の問題、接続のことばの問題などがあげられるであろう。例えば、接続のことばについては、⑦⑤⑦⑦で、日本語には「うだから」「なので」があるが、中国語は単に二文を並べただけで、その間の接続関係を文脈で探らなければならぬ。従つて、中国語では、できるだけ主語を補わなければならぬのである。こうしたことは更に資料を集めて考察したい。また、中国語から日本語への資料も用いて、どのような中国語の時に主語を省き、補うのかも考えていきたい。

【注】

- (1) この資料はそれほど多くない。
- (2) 前稿でも求べたように、日本語では省略されるが、中国語では省略されない例も多く見られる。
- (3) これも、前稿でも求べたように、中国語の場合、省略可能だが省略しない例も多く見られ、今後の課題である。
- (4) 「お忘れはいたしません」を相手のことと誤解して、誤訳している。
- (5) 次のような反例もある。

△晝飯から三時間と経たないうちに夕飯をすませて、私

は一人下田の北へ橋を渡った。下田富士に攀ち登つて港を眺めた。歸りに甲州屋へ寄つてみると、藝人達は鳥鍋で飯を食つてゐるところだった。▽(伊24)

△喫過午飯還不到三小時就喫了晚飯，我獨自從下田向北走，過了橋。我登上下田的富士山，眺望着港灣。▽回來的路上順便到了甲州屋，看見藝人們正在喫鷄肉火鍋。▽(伊138)

△下りは私と榮吉とがわざと後れてゆつくり話しながら出發した。二町ばかり歩くと、下から踊子が走つて來た。▽(伊23)

△下山時，我和榮吉特意遲一步動身，慢慢地邊談邊走。

▽走了約一里路之後，歌女又從下面跑上來。▽(伊135)

(6) これには例外も多い。

「もし、その男が、本物のドイツ情報局員なら、△ベルンのドイツ公使館へ行く筈ですから、…」(D50)

「如果漢庫真是德國情報局的工作人員，△他▽應該到貝隆的德國公使館去。」(D33)

「しかし、わたしのほうもその気になれば△モルモットに与えてみることもできた。」(友56)

「但是如果我也有那個意思，那△我▽完全可以拿豚鼠作試驗。」(友56)

△爺さんは峠を越える旅人から聞いたり、新聞の廣告を見たりすると、△その一つをも洩らさずに、全國から中

風の療法を聞き、賣藥を求めたのださうだ。▽(伊16)

△凡是老爺子從走過山頂的旅人聽來的，或是在報紙廣告上看到的，△他▽一次也不漏過，向全國各地打聽中風症的療法，購求出售的藥品。▽(伊119)

△二人きりだから、初めのうち彼女は遠くの方から手を伸して石を下してゐたが、だんだん△我を忘れて一心に碁盤の上へ覆ひかぶさつて來た。▽(伊20)

△因爲只我們兩個人，起初她老遠地伸手落子，可是漸漸△她▽忘了形，專心地俯身到棋盤上。▽(伊130)

△もしあなたが今日でもう二千回以上も日曜日をもかえる年配者なら、△なつかしく思い出されるだろうが、その昔、日めぐりというものがあつた。▽(日76)

△如果你是位已經度過了兩千個以上星期天的年長者，△您▽会以懷旧的心情，想起以前有一種每天斯下一頁的日曆啦。▽(日76)

△湯ヶ野にゐる時から私は、この前髪に挿した櫛を貰つて行くつもりだつたので、△犬の毛を梳くのはいけないと思つた。(伊23)

△在湯野的時候，我就打算向歌女討取插在她前髮上的這把梳子，所以△我▽認爲不該用它梳狗毛。▽(伊136)

△△そんなお説教をしたくせに、お婆ちゃんはおやじたちとドライブへ出かけてしまった。▽(ダ6―82)

△雖然△姥姥▽對我進行規勸，可是她跟爸爸媽媽去郊遊

了。V(ダ6-82)

(7) 会話の場合は、(3)でも述べたように、中国語は省略されない例も多く見られる。

「大島にゐる時は何をしてゐるんです。」(伊22)

「你在大島的時候做些甚麼？」(伊135)

「よかったら、私の車に乗り給え」(D33)

「如果你願意，可以坐我的車走。」(D22)

「まあこの有様を見てやつてくれりや、可哀想だと思ひなさるだらう。」(伊25)

「唉，你看到這種情形，也要覺得可憐吧。」(伊140)

例文出典と略語

一、伊：川端康成『伊豆の踊子』(『川端康成集』)一九五

五年 筑摩書房

侍桁譯『伊豆の踊子』(『雪國』)一九八一年 上

海譯文出版

二、D：西村京太郎『D情報機関』一九七八年 講談社

關燕軍譯『D情報機関』一九八二年 北京出版社

三、ダ：生島治郎著 隨剛譯『ダイイング・メッセージ

(臨終遺言)』(『日語學習與研究』)一九八二年五期、

一九八四年六期)

四、入：菊池寛著 岳久安譯『入れ札(投票)』(『日語

學習與研究』)一九八五年一期、二期)

五、嘘：遠藤周著作 黃來順譯『嘘(謊話)』(『日語學

習與研究』)一九八七年五期)

六、友：星新一著 趙星海譯『友情の杯(友情之杯)』

(『日語學習與研究』)一九八五年二期)

七、石：川端康成著 雷定平譯『石榴』(『日語學習與研

究』)一九八四年六期)

八、リ：望月八十吉 高維先訳注『リンガフォン中国語コ

ース』)一九七五年

九、走：太宰治著 松筠譯『走れ、メロス』(『日語學習

與研究』)一九八一年一期、二期)

十、証：松本清張著 祖乘和譯『証言』(『日語學習與研

究』)一九八一年二期、三期)

十一、日：石川喬司著 沈仲義譯『日曜日は赤(星期天是紅

的)』(『日語學習與研究』)一九八八年三期)

十二、風：壺井栄著 李海峰譯『あしたの風』(『日語學習

與研究』)一九八二年一期)

十三、：小松左京著 趙星海譯『牛の首(牛頭)』(『日語

學習與研究』)一九八六年六期)

【補注】

印刷の都合上、簡体字を使えなかった。

また、記号も本論篇と異ならざるをえなかった。

なお、本稿脱稿直前に、『日語學習』一九八九年第五期に、陳相武氏の「侍桁譯『伊豆的歌女』讀後小議」が発表され、主語を取り違えたための誤訳三例が挙げられている。そのうちの一例が、本論篇の冒頭に挙げた文であり、指摘は正しい。二例目は、本論篇⑤⑨に挙げた例であるが、これは誤訳ではなく、はしなくも主語の省略の難しさを裏付けていると思われる。